

## 「北区の特性に応じた災害に強いまちづくりについて」聴取意見の一覧

①審議の方向性について、3つの項目（1. 子どもが参画できる防災の取組 2. 集合住宅における防災の取組 3. 北区全体での防災意識の向上のための取組）で進めてよいか、ご意見をご記入ください。

No.	意見内容	意見者
1	・この項目に関して、異論はなかった。	全員

②3つの項目でよろしければ、それぞれについてご意見をご記入ください。

■「子どもが参画できる防災の取組」

No.	意見内容	意見者
1	・災害時に子どもを守り、また、子どもが災害対応に参画できるように、子どもが参画できる防災の取組みは継続的に実施されることが大切な視点である。	加我会長
2	・避難所開設の場合、プライバシー確保のための大量の段ボールのベッドや仕切りなどの設置が必要になってくると思う。そういうことについては、中学生でも対応が可能だと思う。	天野副会長
3	・中学生を対象に防災の取組みを考えるのは本当によいと思う。実際に家で保護者不在の時に発災した場合の対処の仕方や、自主防災組織との連携も必要かと思う。 ・マンパワーとして中学生の力を考えるのは良いと思う。	荒川委員
4	・子どもの防災への取組の内容は、いろいろあるが継続して無理なく実施していける団体、グループをイメージすることが必要と思う。	奥田委員
5	・防災は「自分で考えること」が大切なので、子どもの防災訓練では、自分で防災について考えることを身に着けるような取組が必要と考える。また、学んだ事を大人たちに伝える仕組みを作れば、大人と子どもの相互理解につながると考える。 ・防災の学びは小学生から継続していくことが大切。ちゃんと学びのフローを整えることも大切であると思う。	陳代委員
6	・行政からの働きかけで、年に1回、地元と中学校が協力して中学生に向けた防災講座を実施すればよいと思う。	椿委員
7	・中学校で行われている防災講座の取組を小学校から実施し、学年を追うごとに理解が深まるようにする。 ・保護者の参観日の行事に防災講座を取り入れれば保護者を巻き込むことができると思う。保護者が防災の意識を持つと家庭への広がりや地域の防災活動への参加にもつながるように思う。	花咲委員
8	・親子で参加する防災訓練や防災関連授業の授業参観、体育館を使った避難所開設訓練合宿を学校と地域の自主防災会などと協力して取り組む。 ・子どもたちによる災害の歴史発掘研究（地元で昔の災害で被災した人がいれば話を聞く。いなければ教えられる先生に聞く等）。その成果を保	松川委員

	<p>護者や地域の大人に向けて発表する。(普段、防災の取組に関心をもたない大人でも子どもの言うことには関心を持つ)</p>	
9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生の防災講座を定期的に全中学校で開催してほしい。</li> <li>・公開授業で地域の方々と子どもが共に学び、共感できればよいと思う。</li> </ul>	異委員
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生対象の防災講座を毎年実施することが重要と考える。</li> <li>・そして中学校と自治会とが連携した防災訓練計画が必要と考える。</li> </ul>	今野委員
11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生は体格や力も大人に近づいており、避難所等を手伝ってもらいなど戦力として期待できるので中学生に向けた防災講座の開催はとても意義があると思う。</li> <li>・小学生向けの防災講座も検討してもらいたい。</li> <li>・高校生は学業や部活で忙しいと思うが、ほとんど大人と同じ力や判断力があると思うので、防災で子どものリーダー的な仕事をしてもらえたらと思う。</li> </ul>	野田委員
12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小、中、高、大と年齢に応じて防災に取り組む機会を設けると良い。</li> <li>小学生：自分の身を守ることを保護者と一緒に考える</li> <li>中学生：自分の身を守ること、家庭や地域で何ができるかを考える</li> <li>高校生：自分の身を守ること、家庭や地域で積極的に活動するノウハウを学ぶ</li> <li>大学生：自分の身を守ること、被災地において、災害ボランティアの役割を学ぶ</li> <li>など</li> </ul>	羽根委員

■「集合住宅における防災の取組」

No.	意見内容	意見者
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全で安心して暮らせると思われる集合住宅においても災害時には思わぬ被害や対応に困ることがあると思う。新たな自主防災組織として、集合住宅での防災の取組はもっと広がることを期待している。</li> </ul>	加我会長
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・過去にも、集合住宅の停電で水道が使えなくなり、避難所までトイレを借りに来ていたことがあった。集合住宅での防災の取組は必要だと思う。</li> </ul>	天野副会長
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マンション全体で取組んでいるところと、まったく取組んでいないところの格差がある。</li> <li>・取組んでいるところは、さらに同じように取組んでいるところとつながっていると思う。</li> <li>・新しいマンションほど、まとまり易いと思う。</li> </ul>	荒川委員
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的に集合住宅の防災対策は住民が自主的に取り組まなければならない、と思ってもらうことが大切である。</li> <li>・戸建の自主防災組織と集合住宅の自主防災組織が平時から連携をとり、災害時には避難体制で協働できるよう計っておく必要がある。</li> </ul>	奥田委員
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マンションの在宅避難時の孤立、停電時の給水問題など様々な可能性も考え、戸建住宅と集合住宅の防災対策を連動して対処していくことも大切と思う。</li> </ul>	陳代委員
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すでに防災対応の取組が組織化されているマンションもあるが、そこまでの対応ができていないマンションが課題である。</li> </ul>	椿委員
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災訓練で「全員参加」を呼びかけて実施すれば、参加者が多いほど状況に合わせた対策を検討できる。</li> </ul>	花咲委員

8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エレベーターと水道が使えなくなることを想定した、在宅避難訓練の実施</li> <li>・災害が起きたとき、自分や家族がどんな状況に見舞われるかを具体的に考えられるようなきっかけを与えて、そこから隣近所と全く没交渉ではいられないことなどを気づいてもらうことがまず必要と考える。</li> </ul>	松川委員
9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもからお年寄り、障がい者一人ひとりの暮らしを見守り、支えあうために、日ごろからのコミュニケーションをとる仕組みづくりが必要と感じた。</li> </ul>	巽委員
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グランアベニュー北花田を視察し、他の集合住宅も同様の防災訓練計画が必要と考える。</li> <li>・マンションの規模に合った防災訓練が必要と考える。</li> </ul>	今野委員
11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集合住宅ならではの、コロナウイルス感染症を前提とした防災対策が必要となってくる。</li> </ul>	野田委員
12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新耐震基準の集合住宅においては、在宅避難を基本に防災に取り組む。受水槽の活用、備蓄、安否確認、要援護者の把握及び要援護者が孤立しないように日ごろからコミュニティ活性化に努める。</li> <li>・他の集合住宅と交流する機会を設け、互いの工夫していることや問題点の情報交換も大切だと考える。</li> <li>・避難所に行かなくて済むような防災対策を行うことは、今回のコロナ禍で、一層重要であると実感した。</li> </ul>	羽根委員

■「北区全体での防災意識の向上のための取組」

No.	意見内容	意見者
1	・防災意識は、日常的には忘れがちである。災害時に、災害に対して適切に対応し、被害を軽減し、災害後の復旧にもみなで取組めるよう、防災意識の向上のための取組は、継続していくことが大切である。	加我会長
2	・金岡南校区では、金岡南小学校の全児童へ、防災頭巾を提供することで、防災意識の啓発を図った実績がある。	天野副会長
3	・人は災害の状況になってみないと意識の向上はないかもしれない。 ・災害の直後というタイミングも学びとしては重要に思う。 ・北区は災害の被害が少ないせいもあるが、一昨年の台風でも直後は災害対応について覚えているが、しばらくたつと、災害に関する情報をあまり意識しなくなっているように思える。	荒川委員
4	・マンションに対する啓蒙活動を活発にするべきと考える。	奥田委員
5	・防災の取組についていろんな世代に向けた参加の機会を作る。 ・地域の防災訓練は、その地域の一部の人しか参加していない感じを受けるので、もっと敷居を下げる工夫も大切かと思う。 ・子どもが参加できる工夫（学習発表会やイベントなど）をすれば親や祖父母世代が参加する可能性も高くなるし、子育て世代同士がつながる機会にもなると思う。	陳代委員
6	・中学生の3年間だけでも防災訓練を行うことが北区全体の防災意識の向上になるのではないか。	椿委員
7	・障害のある方や高齢の単身世帯の避難をどうしていくのか、区役所が橋渡しをして、避難の介助を担う近隣の方を探しておくことで自助・共助につながる。	花咲委員
8	・すべての住民が「マイ・タイムライン」を作るようにする。 「マイ・タイムライン」とは風水害の警戒レベル毎に各々がどう行動するかを明記した災害時の対応計画で、各世帯、各個人が地域の災害や家族の状況を考えて作成するので、すべての住民が作れば、必然的に防災意識が高まると思う。 ・要配慮者のマイ・タイムラインが作られれば、地域側がどう対応するかを情報共有することが出来、地域での避難行動要支援者に対する支援計画	松川委員

	<p>の中核となると考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いきなりマイ・タイムラインを作成することは難しいので、まずマイ・タイムライン作りを指導できる防災リーダーを育成し、その人達に地域に広めてもらう</li> </ul>	
9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちの住むまちをあらためて、注意して歩く</li> <li>・まちの中の危険個所や防災設備、史跡などを探すことで災害を他人事ではなく、自分も関係することと認識し、防災意識を回り行動につなげる。</li> </ul>	異委員
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災意識を向上させるためには、「自分のまちは自分でまもる」という自助共助意識が重要と考える。</li> <li>・北区は他の地域に比べて比較的自然災害には強いため、防災意識は低いと考えられるが、自然災害に対する備えと対応策については事前準備と定期的訓練は重要と考える。</li> </ul>	今野委員
11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・堺市か、あるいは北区として、「啓発の日」を作ればよいと思う。</li> </ul>	野田委員
12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災訓練、防災講座となると、一般にみな構えてしまい参加する人も決まった人になりがちである。多くの人に気軽に参加してもらうために、商業施設と共同で訓練などを実施する、お祭りなどのイベントと合わせて行う。</li> <li>・小学生には、保護者と一緒の訓練を日曜参観に取入れるなど、子育て世代にも参加できる機会を設ける。</li> </ul>	羽根委員

③その他ご意見がありましたら、ご記入ください。

No.	意見内容	意見者
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分自身の体験として、災害時には横のつながりも大切だと思った。地域が停電した際には逆に近隣の人との会話が増えた。</li> </ul>	荒川委員
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「防災」というのは日常的に意識してもらいたいことであり、どの場面でも考えるべき生きるために必要なことだと思うので、「防災イベント」のように大がかりに開催するもの大切だが、「非常食の調理パーティ」のような形で日常の中に防災要素を滑りこませることも大切と思う。</li> </ul>	陳代委員
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ対策でいままでの防災計画の見直しが必要になってきたのではないか。</li> </ul>	巽委員
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナウイルスで社会的に大きな変化があったので、色んな事柄について、コロナを想定したものに考えなおさないといけないと思う。</li> </ul>	野田委員